



YANMAR

CORPORATE PROFILE

ヤンマーグループ / 会社案内

ヤンマーホールディングス株式会社

〒530-0013 大阪市北区茶屋町1-32
YANMAR FLYING-Y BUILDING
<https://www.yanmar.com/>



この印刷物は植物油インキを使用しています。



代表取締役社長 兼 CEO
山田健人

新しいテクノロジーで、 より良い未来につながる社会を。

私たちヤンマーは1912年の創業以来、創業者の意志を引き継ぎ、社会に存在する企業使命として大切にしている想いがあります。それは、当社の飛躍の起点となった世界初の小型ディーゼルエンジン開発の成功から現在に至るまで連綿として培ってきた卓越した技術を基盤に、「食料生産」と「エネルギー変換」の領域でお客様の抱える課題を解決し、人も自然も豊かでありつづける社会を創ることです。

近年、世界は目まぐるしく変化しています。地球規模で著しく人口が増加すると同時に、日本など多くの先進国を中心に、農業・漁業における就業人口の減少や高齢化が進んでおり、食料の生産性の改善やエネルギーの省力化が世界的に火急の課題となっています。また、世界中で都市化が拡大しており、建設機械、空調・発電機器を含めたインフラ整備へのニーズも、今後、継続して高まる見通しです。

このような環境変化のなか、IoTやAIなどのテクノロジーの飛躍的な発展に伴い、今までには考えられなかったような価値の提供が可能になってきました。ヤンマーにおいても「最大の豊かさを、最少の資源で実現する。」というテクノロジーコンセプトのもと、多様化するお客様の課題や要求に応じて、今まで以上にお客様に寄り添った製品・ソリューション・サービスで貢献できる機会もますます大きくなっています。それは一方で、既存の技術やサービスについて、絶え

ず健全な危機感をもって検証し、時代に合わせて進化させていかねばならないという事でもあります。

私たちヤンマーの存在価値とは、人がいつまでも豊かに暮らせること、自然がいつまでも豊かであり続けること、その2つのサステナビリティにどれだけ貢献しているかによって認められるものと考えます。変わりゆく社会環境の下、活動するフィールドも日本から世界へと広がる中で、私たちは、変化をチャンスととらえ、進化し続ける技術を核に、人と自然が共生しながらもワクワクできるような、より豊かな社会—A SUSTAINABLE FUTURE—の実現に貢献してまいります。

MISSION

わたしたちは

自然と共生し

いのち
生命の根幹を担う

食料生産とエネルギー変換の分野で

お客様の課題を解決し

未来につながる社会と

より豊かな暮らしを実現します。

「最大の豊かさを、最少の資源で。」

人々の負担を少しでも軽減したいという想いで世界初の技術を—

「人々の労働の負担を機械の力で軽減したい」それが、農家に生まれ人々の過酷な労働を目の当たりにしてきた、ヤンマーの創業者である山岡孫吉のゆるぎない想いでした。

創業後、省力化につながる次世代の動力源として、ディーゼルエンジンの安全性とエネルギー変換率の高さに大きな可能性を見出しましたが、当時のディーゼルエンジンは大型で、農業のような持ち運びや農機の用途には適しませんでした。山岡孫吉は、当時技術的に困難とされたディーゼルエンジンの小型化・実用化に取り組み、1933年、苦勞の末に世界で初めて成功。ゆるぎない想いを実現させる第一歩となりました。

「燃料報国」を掲げ、世界へ—

ディーゼルエンジンの小型化・実用化の成功から、「資源の乏しい日本において一滴の燃料も無駄にせず、社会の発展に寄与する」という想いをより強くし、「燃料報国」という理念のもと、優れたエンジンの製造を基盤に、様々な産業機械の製造へと事業領域を拡大しました。

日本国内では、小型ディーゼルエンジンの農業市場への浸透や農業機械の普及に尽力しました。戦後の復興期には、極度に悪化した食料事情を背景とした漁業推進政策が進められる中、いち早く漁船に搭載するディーゼルエンジンに着手し、また高度経済成長期には、労働力不足や都市開発のニーズに対応する建設機械の製造・販売などにも事業を拡げ、社会の発展に貢献していきました。

国外に目を移すと、ディーゼルエンジンの小型化に成功した5年後には、フィリピンやインドなどアジア地域を中心にディーゼルエンジンの輸出を開始。1950年代にはブラジルに初の海外現地法人を設立するなど、舞台を全世界へと移していきました。

持続可能な新しい未来を目指して—



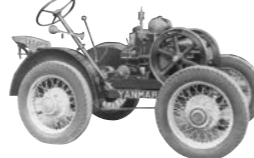










そして、現在。人口問題、エネルギーや環境問題、食料問題など地球規模で様々な課題が生じる中で、持続可能な在り方が模索されるようになりました。私たちは、「燃料報国」の名のもとにそれまで受け継がれてきた創業者の想いを、現代社会の抱える多様な問題や要請により良く応え、社会の発展にさらに貢献していくために、2016年に「**A SUSTAINABLE FUTURE** —テクノロジーで、新しい豊かさへ。—」へと昇華させました。

「人が、いつまでも豊かに暮らせること。」「自然が、いつまでも豊かでありつづけること。」

ヤンマーは、事業はもちろん、社会貢献を含めたすべての活動を通じて、この2つサステナビリティの両立を目指しています。いつの時代も、社会問題の解決や人々の暮らしの豊かさを求め、ソリューションを提供してきた私たち。そこには、脈々と受け継がれてきた創業者の想いが根底にあります。100年以上にわたり、そして今後の100年を見据えて、テクノロジーを核としてヤンマーは常に進化しつづけます。すべては、豊かな未来のために—。

A SUSTAINABLE FUTURE

— テクノロジーで、新しい豊かさへ。 —

| | | | | | | | |
|--|--|---|--|--|---|--|---|
| <p>1912 創業</p> <p>山岡孫吉が、ガス発動機を修理、販売する「山岡発動機工作所」を創業。</p>  | <p>1933 小型エンジン事業</p> <p>世界初 小型ディーゼルエンジン完成</p> <p>世界初の小型横形水冷ディーゼルエンジンHB形(5-6馬力)を完成。</p>  <p>■横形水冷ディーゼルエンジンHB形</p> | <p>1937 アグリ事業</p> <p>耕うん機・トラクター発売</p> <p>農業機械に進出。耕うん機「陸王号」や「岡田式ヤンマートラクタ」を製造、発売。</p>  <p>■岡田式ヤンマートラクタ</p> | <p>1947 マリン関連事業</p> <p>漁船用小型ディーゼル発売</p> <p>画期的な日本最小の立形ディーゼルエンジンLB形(5~7馬力)を製造、発売。</p>  <p>■船用ディーゼルエンジンLB形</p> | <p>1947 コンポーネント事業</p> <p>神崎高級工機製作所設立</p> <p>工作機械の修理及び治具・専用機の製作を手掛ける株式会社神崎高級工機製作所を設立。</p>  <p>■第1次整備が完了した神崎工場</p> | <p>1952 大型エンジン事業</p> <p>外航船用補機 中・大型エンジン発売</p> <p>外航船用補機の需要増大に着目し、船内の発電機やポンプなどを動かす補機用中型エンジン(120馬力)を製造、発売。</p>  <p>■4MS(L)形</p> | <p>1953 エネルギーシステム事業</p> <p>電源・予備電源用 大型ディーゼルエンジン発売</p> <p>電力会社や発電所、ビルや工場などの非常用発電として大型ディーゼルエンジンを製造、発売。</p>  <p>■東京天文台乗鞍岳コロナ観測所に納入したディーゼル発電装置</p> | <p>1968 建機事業</p> <p>世界初自走式ミニショベル発売</p> <p>土木建設市場の発展に合わせ、小型ディーゼルエンジンを搭載した小型自走式のホイール式ミニバックホーYNB300を製造、発売。</p>  <p>■ホイール式ミニバックホーYNB300</p> |
| <p>創業期</p> <p>農家の人々の仕事を少しでも楽にするため 苦勞の末にディーゼルエンジンの小型化に成功</p> | <p>戦後復興期</p> <p>食料事情の悪化や電力不足から 経済性に優れたディーゼルエンジンの需要が拡大</p> | | | <p>事業拡大期</p> <p>急速な工業化による労働力不足から機械化が進み より高性能なエンジンや機械の開発へ</p> | <p>環境対応の強化</p> <p>地球環境問題への取り組みが世界的な課題となる中 業界に先駆けて環境負荷軽減技術を追う</p> | <p>持続可能な社会へ向けて</p> <p>研究拠点のグローバル化や基礎研究に注力 ソリューション提案で新しい豊かさへ</p> | |
| <p>1955</p> <p>ドイツ発明協会が 山岡孫吉に 「ディーゼル金賞牌」授与</p>  | <p>1956</p> <p>ヤンマー技術研究所 (現中央研究所) 開設</p> | <p>1957</p> <p>西ドイツが山岡孫吉に 「大功労十字章」授与</p>  | <p>1957</p> <p>ブラジルに ヤンマー初の 海外現地法人設立</p>  | <p>1984</p> <p>南極昭和基地に コージェネレーション システム納入</p>  | <p>2012</p> <p>世界初、米国CARBの 排出ガス規制(4次) 認証を取得(19~56kw)</p>  | | |



ヤンマーグループの事業フィールドは 私たちが暮らす 「大地」「海」「都市」そのものです

ヤンマーグループが対象とする事業フィールドは「大地」「海」「都市」。それぞれのフィールドでは、創業の原点を受け継ぎ、高品質で高い信頼性を誇るエンジン事業、豊かな食料生産の実現に向けグローバルに展開するアグリ事業、海洋環境との共生を目指すマリン関連事業、省エネルギー技術の多様な展開に取り組むエネルギーシステム事業、多用途の建設機械を提供する建機事業、オリジナリティの高い製品を開発するコンポーネント事業など7つの事業が独自の強みを発揮し、多彩なソリューションを展開しています。

■ 小型エンジン

産業用小型ディーゼルエンジンのパイオニアとして、業界トップクラスの商品の生産・販売・開発・サービスを行っています。

- 産業用小型ディーゼルエンジン、ガスエンジン、燃料噴射系精密部品など

■ 大型エンジン

生産・販売・開発・サービスが一体となり、船舶の長い生涯におけるお客様にとってのエンジンの価値(LCV:生涯価値評価)の向上を目指しています。

- 船舶/陸用ディーゼルエンジン、ガスエンジン、ガスタービンおよび関連システム商品

■ アグリ事業

お客様の農業経営のサポートから、ICT等の最先端技術を採用したスマート農業まで、持続可能な農業の実現を目指しています。

- トラクター、コンバイン、田植機、耕うん機、農業施設、無人ヘリ、関連商材など

■ マリン関連事業

世界中の海のさまざまなシーンに環境性能を兼ね備えた高出力なマリンエンジン、快適性・操作性に優れた漁船やプレジャーボート、水産業を支える海洋設備など幅広い商品を開発・提供しています。

- マリンディーゼルエンジン、海洋設備製品、FRP製プレジャーボート、小型漁船など

■ エネルギーシステム事業

省エネ・BCPIに貢献するコージェネレーションやGHP、非常用発電機などのトータルエネルギーソリューションを実施。バイオマス発電等の再エネ分野にも注力しています。

- コージェネ、バイオガスコージェネ、GHP、非常用発電システム、ポンプ駆動システムなど

■ 建設機械事業

小型建設機械のパイオニアとして業界をリードしています。世界初の後方超小旋回機「VIOシリーズ」をはじめ、発電機や投光機などの汎用商品を幅広く展開しています。

- ミニショベル、ホイールローダー、キャリア、小型発電機など

■ コンポーネント事業

独自の油圧制御・歯車加工技術を基盤にさまざまな駆動系システムを開発・製造しています。これらの技術は、農機や船舶などの幅広い分野で活躍しています。

- 油圧機器、歯車、トランスミッション、マリンギヤ、工作機械など

■ 食・住宅設備機器事業

一次産業の持続的な発展と豊かな食生活の創造を目指し、生産支援サービスや食品流通、キッチン等の食空間の提供まで食・住領域におけるソリューションビジネスを展開しています。

- 食材の販売、一次産業生産支援サービス、住宅設備機器販売など

大地 Land

“農業”を“食農産業”へ

ヤンマーは農業機械の提供を通して、生命の根幹を担う食料生産を支えてきました。将来に向けて持続可能な農業を実現するために、ICTの活用や新たなソリューションの提供によりヤンマーは“農業”を“食農産業”へと進化させていきます。



海 Sea

人と海洋環境との理想的な共生

快適なマリンレジャーや、安全な航海と環境との調和を追求した船舶用エンジン・推進システムの開発、さらに、水産業における漁業の活性化や養殖技術の多面展開など、人と海洋環境との理想的な共生を目指しています。



都市 City

エネルギーの有効活用

官民さまざまな施設やビジネス環境、住環境が集積する都市で、再生可能エネルギーの活用や、コージェネによる電力・熱へのエネルギー変換システム、節電に貢献する超高効率ガスヒートポンプエアコン(GHP)など、次世代の街づくりにふさわしいエネルギーの有効利用を目指しています。



私たちはミッションステートメントの実践と、
 “A SUSTAINABLE FUTURE”の実現に向け、
 事業を通じて直面するさまざまな社会課題の解決に取り組み、
 SDGsの達成に貢献していきます。

ミッションステートメント

人と自然が共存する豊かな社会を創造する。

MISSION

わたしたちは

自然と共生し

いのち
 生命の根幹を担う

食料生産とエネルギー変換の分野で

お客様の課題を解決し

未来につながる社会と

より豊かな暮らしを実現します。

A SUSTAINABLE FUTURE

—— テクノロジーで、新しい豊かさへ。 ——

「A SUSTAINABLE FUTURE」が掲げる4つの未来像

VISION 01

省エネルギーな暮らしを実現する社会



エネルギーの可能性を拡大。安価・安全な動力、電力、熱を、いつでも必要なとき必要なだけムダなく使えること。

VISION 02

安心して仕事・生活ができる社会



厳しい労働を、快適な労働へ。誰もが気持ちよく働いて安定した収入を得ると同時に、自然と共に心豊かに暮らせること。

VISION 03

食の恵みを安心して享受できる社会



おいしく安全で栄養豊富な食料を、世界中いつでもどこでも。あらゆる人が、もっと健康やかに生活できること。

VISION 04

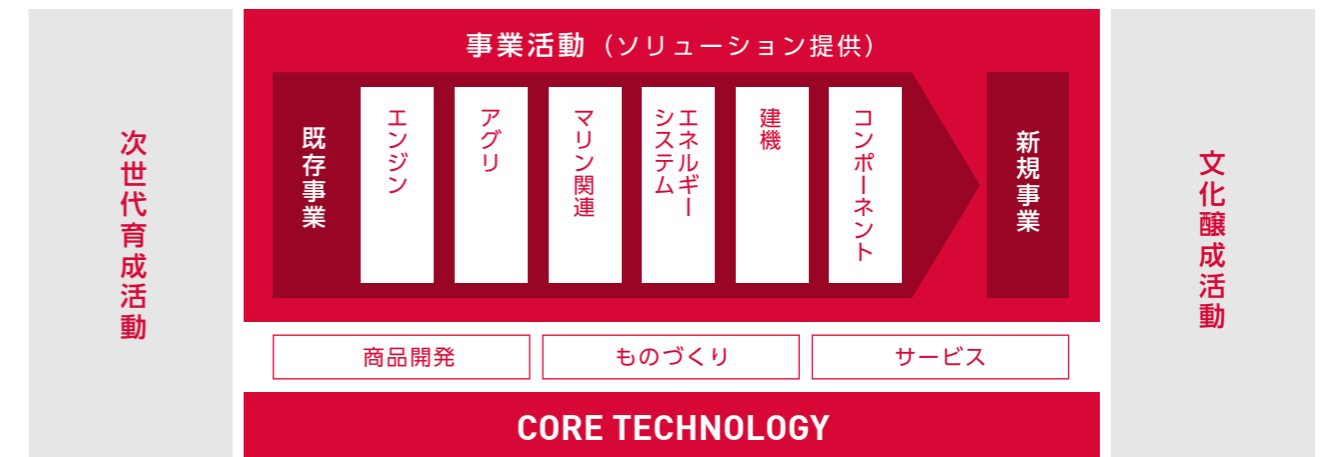
ワクワクできる心豊かな体験に満ちた社会



仕事も余暇も心ゆくまでどろんどろんに愉しめる毎日を実現。あらゆる人の生活のクオリティを高めていくこと。

ヤンマーの企業活動を通じた貢献

関連する主なSDGs



ヤンマーのステークホルダー



お客様

お客様の課題を解決する安全で高品質な商品・サービスを迅速に開発・提供し、お客様に信頼いただけるよう努めています。



従業員

従業員一人ひとりの個性と多様性を尊重し、安全で快適な職場環境づくりと、グローバル人材の育成を進めています。



ビジネスパートナー

国内外の販売店・特約店、サプライヤーとのコミュニケーションを深め、良好なパートナーシップを構築しています。



地域社会

「地域社会と共に歩み、共に生きる」ため、地域の課題解決に向け、住民と一緒にさまざまな活動に取り組んでいます。



環境

持続可能な社会の実現に向け、地球温暖化防止や、資源の有効活用、環境負荷物質の低減、生物多様性に取り組んでいます。

VISION 01

省エネルギーな暮らしを実現する社会

目指す姿

エネルギーの可能性を拡大。安価・安全な動力、電力、熱を、いつでも必要なとき必要なだけムダなく使えること。

VISION-01の社会を実現するために貢献できる主な製品・サービス



エネルギーマネジメントシステム

エネルギーの運用状況の把握・分析、適切な省エネ診断により、施設全体でエネルギー使用を最適化し、省エネルギーに貢献します。



産業用小型ディーゼルエンジン

これまでの産業用小型ディーゼルエンジン事業領域を拡大することを目的に、超低燃費・高出力エンジンを開発。最新の欧州StageV規制にも適合しています。

関連する主なSDGs



【お客様事例】株式会社マルタイ様

省エネ対策の要として、ガスコージェネレーションやガス空調設備(GHP)を導入。ガスコージェネは廃熱を冷暖房などに利用することでエネルギー使用量やCO₂排出量の削減を実現。また、GHPの高効率な冷暖房空調との併用により、省エネ・省コストの他、電力需要のピークカットにも大きく貢献しています。これらの熱電を最適制御するエネルギーマネジメントシステムで更なる省エネを目指しています。



■エンジン事業

船舶における水素エネルギーの利活用に向けて 自社製ボートによる船用燃料電池システムの実証試験を実施

世界的な環境規制強化、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みが進む中、水素燃料を利用した将来のパワートレインにおける技術開発として、燃料電池ユニットなどを組み合わせた船用燃料電池システムを開発し、自社製ボートによる実証試験を行っています。船用燃料電池システムは、船舶特有の安全要件に対応した設計とし、リチウムイオン電池や推進モータ等を含めたパワーマネジメントシステムも自社開発を行いました。今後はこの技術を応用し、さまざまな電動化商品に展開できると考えています。

自社製ボートには、電気機器や水素タンクを多数搭載しているため、電気機器から出るノイズの悪影響を最小化したり、座礁や衝突から水素タンクを守るためにデッキ甲板部分を専用形状に作り上げたりするなど、当社のFRP成形や船殻組立に関する高度な技術力がいかに発揮されています。



関連する主なSDGs



■エネルギー事業

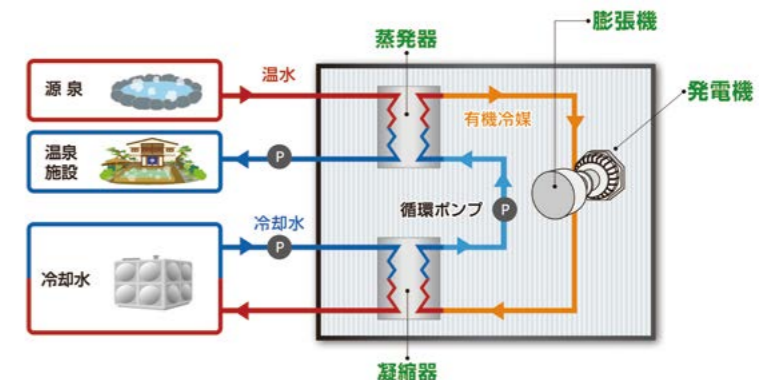
未利用エネルギーである温泉廃熱を活用した 小型オーガニックランキンサイクル (ORC) 廃熱発電機を開発

より発電効率の高い商品など環境への負荷が低く、快適で安心して仕事・生活ができる社会の実現に向けて様々なエネルギー製品づくりを続けています。近年ではトータルエネルギーソリューションとして持続可能な未来へ向けたエネルギーシステムの開発も行っています。これまで利用されていなかった熱を有効活用するソリューションとして、パッケージ化された10kW未満の小型オーガニックランキンサイクル (ORC) 廃熱発電機を開発しています。パッケージ化することで施工性の向上や複数台設置がしやすく、案件ごとに最適な容量での提案が可能です。

未利用の工場廃熱や温泉熱などを活用することにより、化石燃料由来のエネルギーに比べてCO₂の排出を抑制でき、気候変動の緩和に貢献できます。日本国内には、温泉をはじめ、工場などでも小規模な熱源が多くあるため、それらを活用することで社会的、経済的に最適なソリューションを提供します。



関連する主なSDGs



VISION 02

安心して仕事・生活ができる社会

目指す姿

厳しい労働を、快適な労働へ。誰もが気持ちよく働いて
安定した収入を得ると同時に、自然と共に心豊かに暮らせること。

VISION-02の社会を実現するために貢献できる主な製品・サービス



VIO20
後方超小旋回油圧ショベル

本体の後部が車幅から出ないため小回りが
きき、壁際での作業も後ろを気にせず
作業ができる後方超小旋回機。狭小現場での
安全性や快適性を高めています。



ATG500



AY20

非常用発電システム

非常用発電システムは、自然災害などによる
停電時に、さまざまな設備への電源供給を
担うことで、人命の安全確保や財産の保護、
復旧工事などに貢献します。

関連する主なSDGs



【お客様事例】株式会社本部農場 様

生産性の向上に取り組む株式会社本部農場は、
作業の手間や時間がかかり、燃料費なども負担
となることから、増頭による乳牛のふん尿処理が
大きな課題となっていました。これらの課題解決
に向け、24.5kWのバイオガスコージェネ2台を
設置し、乳牛のふん尿から生成されたバイオガ
スをエネルギー源として発電することで、再エネ
利用のみならず処理工数・コストの削減を実現し
ました。熱電利用に加え、処理後の残渣液を液
体肥料として活用する循環型農業にも取り組まれ
ています。



■ヤンマーシナジースクエア

「お客様の手を止めない」サービスをさらに追求するため グローバルCS拠点「ヤンマーシナジースクエア」を稼働

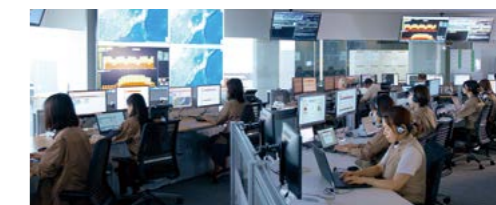
ヤンマーは1984年にエネルギー事業で離島にある発電機の監視を開始し、その後それぞれの事業領域で遠隔監視サービスの展開を進めてきました。2015年にはリモートサポートセンターを設置し、当社グループのすべてのお客様へのトータルサポートを追求。先進的な予防保全型サービスや「お客様の手を止めない」サービスの実現、蓄積データの活用による経営改善サポートに取り組んできました。

2020年には全世界のビジネスパートナーとヤンマーグループがそれぞれの知見やノウハウを集結させ、相乗効果 (SYNERGY) を生み、未来に向けた新たなサービスソリューションを創出していく場所 (SQUARE) として、「ヤンマーシナジースクエア」を建設しました。お客様の機械が常に最適な状態で稼働できるよう見守り、故障による作業の中断や盗難などの損害を未然に防止することで、お客様の生産性維持・向上への貢献を目指しています。

関連する主なSDGs



ヤンマーシナジースクエア



リモートサポートセンター
(ヤンマーエネルギーシステム(株)コンタクトセンター併設)

■建機事業

小型建機のパイオニアとして 世界中の街づくりに新しい価値を提供

小型建機のパイオニアとして、建設現場において安全で快適な作業を行うために最高のパフォーマンスを発揮できる建設機械やサービスを生み出しています。高性能なエンジンと独自技術の油圧システムを融合した建設機械は、高効率・低燃費で高い操作性を実現しています。

ヤンマーの建機事業では、土木作業の省力化ができる建設機械として1968年のミニショベル「YNB300」発売を皮切りに、その時代のニーズに応える商品を提供し続けてきました。2021年にはヤンマーディーゼルエンジン搭載でダンプ機能を備えた世界初のクローラーキャリア「YFW500D」の発売から50周年を迎え、現在も世界中の街づくりとそこで暮らす人々を支えています。

関連する主なSDGs



1968年、ヤンマーディーゼルエンジン搭載ホイール式自走式ミニショベル「YNB300」を発売しました。日本特有の狭い現場で自ら移動して掘削作業が出来る「YNB300」は人手不足、人件費高騰の切実なニーズを捉えていました。



コンパインの足回りを応用して荷箱を取り付けられ、トラックやダンパーが入らない軟弱地での資材運搬ができるという発想を具現化し、1971年にヤンマーディーゼルエンジン搭載でダンプ機能を備えた世界初のクローラーキャリア「YFW500D」を発売しました。

VISION 03

食の恵みを安心して享受できる社会

目指す姿

おいしく安全で栄養豊富な食料を、世界中いつでもどこでも。
あらゆる人が、もっと健やかに生活できること。

VISION-03の社会を実現するために貢献できる主な製品・サービス



ロボットトラクター

当社が開発した位置情報やロボット技術などのICTを活用して、農作業の省力・省人化・効率化を実現する自動運転農機をSMARTPILOTとしてブランド化しています。当社が開発したロボットトラクターもSMARTPILOTの一つであり、トラクターに乗車せずにタブレットで作業をコントロールでき、またオペレーターは、同一ほ場で監視しながら別の作業を行うことが可能なため、大幅な省力化を実現できます。少ない人手で効率良く作業ができるので、作付け面積を拡大しても適期を逃さず作業が行えます。

SMARTPILOT

関連する主なSDGs



【お客様事例】株式会社アジチファーム様

高精度の自動運転を実現した「オート田植機YR8D,A」をいち早く導入されたアジチファームは、IT化の導入や、現場と事務作業を分離した法人の組織化など、積極的な効率化を図っています。「オート田植機」の導入で誰でも簡単に植え付け作業が行うことができるようになり、これまで4人で行っていた作業を2人で行えるなど、農作業の省力化を実現しています。



■アグリ事業

「スマート農業」で農業経営をサポート

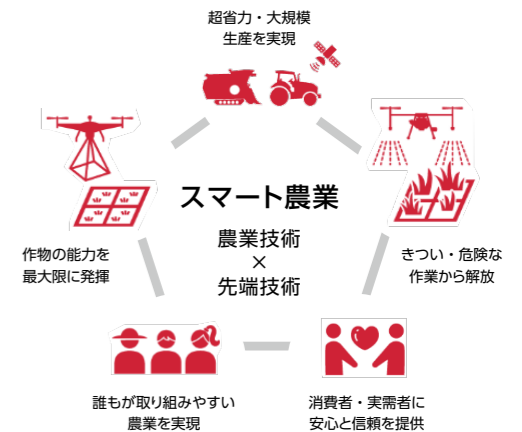
アグリ事業では、これまでの機械化・省力化技術に加え、スマートアシストなどのICTを活用したテクノロジーを集結し、持続可能な農業を目指しています。近年、就農者の高齢化や担い手不足などの問題を抱える農業界では、農作業の効率化や農家に蓄積された経験のデータ化、作業の自動化などに向けた技術開発が必要とされています。

2015年にロボットトラクターを発売し、業界に先駆けて農業機械のロボット化を進めました。田植機では「密苗×自動化」で超省力作業を推進し、収穫量を見える化する情報支援機能付コンバインによって、次年度の栽培に繋がります。

また、大規模経営のデータ管理を一元化し、農機とのデータ連動も可能な「スマートアシスト」やほ場の生育の状態を見える化できる「リモートセンシング」を活用することで、データに基づいた的確な生産管理や経営の効率化を実現しています。次世代へのノウハウ継承や省力化、高能率化、高精度化を実現させて、これからもより収益の高い農業経営をサポートします。

海外でも、スマートアシストなどの最新技術を搭載しながらも、現地のニーズに合わせたトラクターを生産・販売するなど、グローバルに事業を展開しています。

関連する主なSDGs



■マリン事業

養殖マグロなどの計数を高精度に行える

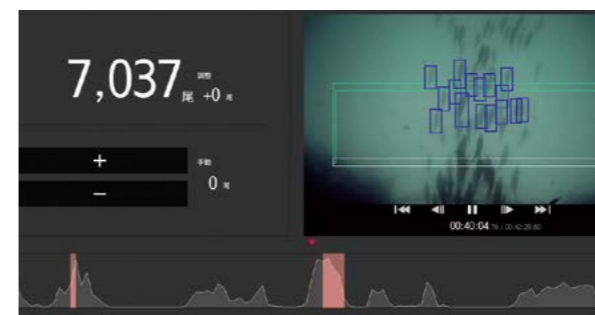
「自動魚数カウントシステム」を開発し養殖作業の効率化に貢献

関連する主なSDGs



マリン事業では、海上や水産業での作業の効率化に貢献する技術開発に取り組んでいます。例えば、天然の小型マグロを畜養種苗として受け入れる際、資源管理の目的で計数が必要です。現状の計数作業では、漁獲した全数を釣り上げての計数や、水中映像を複数人が目視で計数するなど、多大な労力が必要となっています。これらの課題を解決するため、「自動魚数カウントシステム」を開発しました。自動計数のコアとなる画像認識と処理技術は、中央研究所が独自開発し、さらに専用水中カメラおよび画像処理PCなどのハードウェアを含めた統合システムにより養殖現場でリアルタイムの自動計数が可能となりました。

このような技術開発を通して、限りある資源を効率的に活用する、「獲る」から「つくり、育てる」漁業への転換にも貢献していきます。



自動魚数カウントシステムの画面イメージ



自動魚数カウントシステムの活用イメージ

VISION 04

目指す姿

仕事も余暇も心ゆくまでぞんぶんに愉しめる毎日を実現。
あらゆる人の生活のクオリティを高めていくこと。

VISION-04の社会を実現するために貢献できる主な製品・取り組み



ヤンマーミュージアム

「やってみよう! わくわく未来チャレンジ」をコンセプトにしたチャレンジミュージアム。
ワクワクするような体験を通じて子どもたちのチャレンジ精神を育みます。



セレッソ大阪

ヤンマーは、サッカーJ1リーグに所属するセレッソ大阪のトップパートナーです。セレッソ大阪は、1957年に創設したヤンマーディーゼルサッカー部を母体として、1993年のJリーグ発足に合わせて誕生しました。ヤンマーは、セレッソ大阪とともにスポーツが与えてくれる夢・希望・感動といった心豊かな体験を提供していきます。



水上パーソナルクラフト
[Wheeebo]

「誰でも、自由に、ワクワクできる」をコンセプトにしたまったく新しい水上パーソナルクラフト。円形のボード上での体重移動とコントローラーの簡単操作で、水上での楽しみ方を無限に広がります。

■マリン事業

先進のテクノロジーで、 世界中の海に安心とワクワクを

ヤンマーは世界中の海のあらゆるシーンに幅広い製品とサービスを提供しています。環境問題を考慮した高出力・省エネルギーなマリンエンジンや、操作性・快適性に優れた漁船やプレジャーボート、これからの水産業に欠かせない海洋商品を開発・提供しています。

また、マリンプレジャーや漁業などの産業分野に対して革新的な技術開発も行っています。煩わしい操作を行うことなく自動で安全に着陸できる「自動航行・着陸システム」の実証実験に成功し、マリンのさまざまなフィールドでユーザーの負担を軽減することが近い未来可能になります。ヤンマーは皆様に安心してマリンプレジャーを楽しむことができ、そして漁業ができる社会の実現を目指しています。

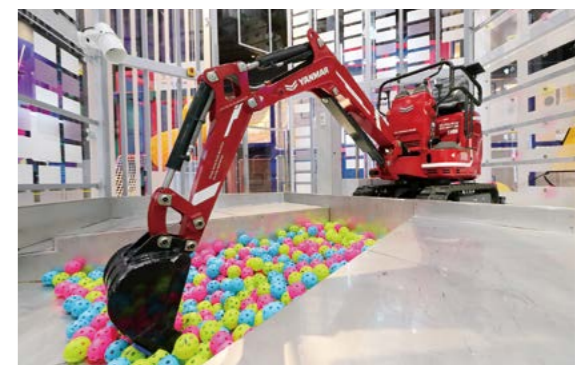
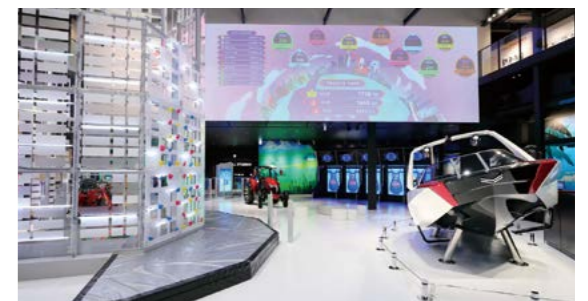


■ヤンマーミュージアム

子供たちのチャレンジ精神を ワクワクするような体験を通して育むチャレンジミュージアム

ヤンマー100周年記念事業の一環として、創業者山岡孫吉の生誕地である滋賀県長浜市にヤンマーミュージアムを設立しました。2019年10月にリニューアルし、「やってみよう! わくわく未来チャレンジ」をコンセプトに、未来の社会を担う子どもたちが、見て・触れて・体験しながら学ぶことができる、チャレンジミュージアムとして生まれ変わりました。

施設内は、山岡孫吉のチャレンジ精神を紹介するストーリーシアターや農業や漁業を仮想体験できるブースのほか、プレジャーボートや建設機械の操作体験シミュレーターなど、大地・海・都市のフィールドで活躍するヤンマーの製品と連動したコンテンツに挑戦することができます。体験型のコンテンツを通じて、チャレンジ精神を育むだけでなく、食料生産、エネルギー変換、街づくりなど、持続可能な社会のあり方をワクワクする体験を通じて学ぶことができます。



ワクワクできる心豊かな体験に満ちた社会

次の100年へ向けて、 もっと私たちにできることを。

ヤンマーは事業活動に加えて、国内外で事業の枠を超えた「次世代育成活動」と「文化醸成活動」に取り組んでいます。様々な体験や交流を通して豊かな社会の実現を目指しています。

次世代育成活動

山岡育英会

創業者・山岡孫吉が世界の平和と繁栄・文化の向上に寄与する人財育成のため1950年に設立。国内の高校生・大学生・留学生などこれまで約5,900名が学業を修了し、社会の各分野で活躍しています。2013年度からは、タイとインドネシアでも奨学生事業を行っています。ジュニアハイスクール生から始まり、現在ではタイはシニアハイスクール生まで、インドネシアでは大学生まで拡充しました。



■在籍者 (2021年3月末現在)

| | |
|---------------|----------------|
| 大学院生 ……31名 | タイ ……117名 |
| 留学生 ……3名 | インドネシア ……92名 |
| 高校生 ……28名 | |
| 国内計62名 | 海外計209名 |

Yamaoka Hanasaka Academy

山岡育英会が支援するタイ現地運営団体の「NPO法人Yamaoka Hanasaka Academy」を通じて、タイリーグ1部に所属するプロサッカークラブ「BGパトゥムユナイテッド」とともにタイサッカー界における若手選手の育成に貢献しています。



山岡記念財団

山岡孫吉のディーゼル博士とドイツに対する感謝の思いを継承するために2016年に設立。山岡孫吉は、ドイツのディーゼルエンジン技術を導入することで、世界初の小型ディーゼルエンジンの開発に成功し、ディーゼルエンジンを基盤とした事業の礎を築きました。本法人は、日独の学術・文化・スポーツ交流を通じて持続可能な社会を次世代につなぎ、SDGs実現の一翼を担っています。



※左：山岡記念財団HPより抜粋、右：20190813広報ギャラリーより抜粋

ヤン坊マー坊

ヤン坊マー坊は、1959年に「ヤン坊マー坊天気予報」のキャラクターとして誕生しました。以降、時代に合わせたデザインで幅広い世代に親しまれてきました。現在は、ブランドステートメント“A SUSTAINABLE FUTURE”の実現に向けて挑戦を重ねていく企業姿勢を表現し、当社に親しみを持っていただくためのマスコットキャラクターとして活躍しています。



“A SUSTAINABLE FUTURE”の実現とSDGsへの貢献



SDGs(持続可能な開発目標)は、2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき目標です。人口問題やエネルギー問題・環境問題・食糧問題などを世界全体の課題として掲げられました。これはヤンマーの事業の方向性と共通する点が多く、“A SUSTAINABLE FUTURE”への取り組みを進めることで、関連するSDGs目標の達成にも貢献していきます。



文化醸成活動

サッカー sponsorship

1957年、海外進出や事業拡大を目指していたヤンマーは、発展に不可欠な“組織性”“グローバル性”を持つサッカーにいち早く注目し、ヤンマーディーゼルサッカー部を創設。それを母体に1993年セレッソ大阪が発足しました。今やサッカーは世界中で愛され、多くのファンを魅了しています。ヤンマーはサッカーを通じて国も言葉も超えた“ワンチーム”となり、“ワクワクできる心豊かな体験に満ちた社会”の実現に貢献していきます。



セレッソ大阪 トップパートナー
セレッソ大阪堺レディース レディース・ガールズスポンサー



サッカーベトナム代表 オフィシャルパートナー



タイ・リーグ1
BG Pathum United オフィシャルトップパートナー



東南アジアサッカー選手権(AFF SUZUKI CUP 2020)

2021年11月現在の情報です

マリンスポーツ sponsorship

ヤンマーは1947年に船舶用エンジンを発売して以来、長年にわたり海とも深く関わっています。人々が海の恵みを楽しみ豊かに暮らせる社会の実現を目指すとともに、海の素晴らしさと楽しさを多くの人々と分かち合えるよう、世界的に愛好者の多いマリンスポーツにおいても、様々なスポンサー活動を行っています。

ヤンマーレーシング

世界で最も美しく、長い歴史と格式を持つキールボートで競う「インターナショナル・ドラゴン・クラス」に自社セーリングチームを編成して参戦しています。

